

関西医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター



安心してお産に臨んでいただくために

総合周産期母子医療センター（大阪府内6施設のうちの1施設）の特色

診療連携

大学病院として母体・胎児および新生児の総合的かつ高度な医療を提供しています。母体合併症や胎児・新生児疾患に対しても、共同で治療にあたる体制ができています。

周産期医療の拠点

産科部門

- 大阪産婦人科診療相互援助システム（OGCS）の基幹施設
- 24時間体制で大阪府下全域からの母体および胎児救急患者、ハイリスク妊婦を受入
- 母体・胎児集中治療室（MFICU）9床
後方病床30床の合計39床

新生児部門

- 大阪新生児診療相互援助システム（NMCS）の基幹施設
- 24時間体制での新生児救急医療業務
- 新生児集中治療室（NICU）12床、新生児回復期治療室（GCU）15床の合計27床

お母さんと子どもたちを守るために

多くがハイリスクである年間700例以上の妊娠・分娩（合併症妊娠・多胎妊娠・切迫流早産・胎盤位置異常・胎児異常など）と250例以上の検査や治療を必要とする新生児（低出生体重児・早産児・先天異常など）の受入に24時間体制で対応しています。

裏面にも情報があります

関西医科大学附属病院産科は、健康な妊婦さんの「正常妊娠・正常分娩」を歓迎します。

紹介状がなくても妊娠初期の初診対応をいたします。（要電話予約）初診の際には、可能でしたら妊娠初期血液検査を受ける前に受診されることをお勧めします。

産科は全額自費診療のため、初診時に選定療養費（5000円）を請求しません。（混合診療の場合には請求します。）

無痛分娩

硬膜外鎮痛法による無痛分娩を麻酔科管理のもと 24 時間行っています。産科麻酔のトレーニングを受けた麻酔科医が実施します。附属病院では年間 700 ～ 800 の総分娩のうち、100 例ほどが無痛分娩となります。毎週木曜日午前と第 1・3・5 土曜日午前に無痛分娩のための専門外来を実施しており、いろいろな疑問にお答えするとともに無痛分娩に伴う合併症や注意点について詳しくご説明いたします。受診を希望される方は産婦人科外来でお声がけ下さい。

胎児外来

胎児外来では胎児の疾患が疑われる場合に、専門医が超音波検査を用いて診断を行います。胎児 MRI、胎児 CT、羊水染色体検査を用いて診断することもあります。胎児期に診断することで胎児治療や生直後からのスムーズな新生児治療が可能となります。安全に分娩をむかえられるように外来では胎児診断で分かること、出生後にしか分からないことを丁寧に説明します。ご希望の方には、胎児の形態的な異常を調べる胎児超音波スクリーニング検査も行っています。専門医が妊娠中期（18 週頃）と妊娠後期（28 週頃）に超音波検査を用いて行います。

ハイリスク妊婦 相談外来

内科疾患などの合併症があり、これから妊娠すること、あるいはすでに妊娠したことに不安を感じている場合に産科医に相談できる外来です。安全・安心な妊娠継続ならびに分娩が可能であるか、国内外の情報を提供し、ベストな方針を一緒に考えます。また、必要に応じて他科と合併症の診断や治療を協力して行います。不育症や胎児形態異常に対しての胎児治療や新生児治療などに関するご質問にも応じます。なお、関西医科大学附属病院に通院していない妊婦さんのセカンド・オピニオンも可能です。

お産食のお祝い膳を提供しています。



和食膳（例）

天麩羅盛合わせ
海老の和風サラダ
散らし寿司
魚の西京焼き
炊き合わせ
出し巻き卵焼き
茶碗蒸し
フルーツ盛合わせ



フレンチコース（例）

牛フィレ肉ステーキ
海老のパリ風サラダ
四季のマリネ
コンソメスープ
じゃが芋とベーコンのグラタン
パン
季節のサラダ
フルーツ盛合わせ

陣痛分娩室（LDR）



LDR では、陣痛室・分娩室・回復室までを同じ部屋で過ごせるようになっています。そのため、分娩の進行に伴い、産婦さんが部屋を移動する必要がなく、より安全にリラックスして分娩に臨むことができます。当院では LDR を 2 室設けています。

※ LDR 使用の場合、分娩費用の他に 2 万円かかります



← 附属病院へのアクセスはこちら

産科外来：外来棟 3 階女性診療科（K2）内
産科病棟：病棟 5 階総合周産期母子医療センター内